



TITLE:

# 【学会記事】スティーブン・ローズフィールド教授講演会

AUTHOR(S):

本山, 美彦

---

CITATION:

本山, 美彦. 【学会記事】スティーブン・ローズフィールド教授講演会.  
経済論叢 1997, 160(1): 104-104

ISSUE DATE:

1997-07

URL:

<https://doi.org/10.14989/45159>

RIGHT:

# 經濟論叢

第160巻 第1号

- 
- R.モールの社会概念(2).....長 屋 政 勝 1
- 經濟発展戦略と税制改革.....森 晶 寿 28
- 日本と韓国の投機的土地保有と  
土地利用計画(1).....鄭 炳 潤 58
- スウェーデンにおける産業別賃金交渉体制の  
形成と女性賃金問題.....北 明 美 71
- 東北タイにおける児童労働供給(2).....石 井 一 也 91

学 会 記 事

---

平成9年7月

京都大學經濟學會

## 【学会記事】

## スティーブン・ローズフィールド教授講演会

平成9年5月26日午後12時30分から2時30分まで、京都大学経済研究所の会議室において、経済研究所と京都大学経済学会との共催で、米国ノースカロライナ大学、スティーブン・ローズフィールド (Steven Rosefield) 教授による「ロシアの経済改革を阻んでいるもの」というテーマの報告があった。ロシアでは、所有権が法的に確定していないために、経済規制の自由化がただちに経営責任者による汚職、物資横流し、賄賂の横行という事態を生み出す。ロシアで進行していることは、新しい資本主義とはほど遠い「誤った工業化」(misindustrialization)である。物資は闇市場に消え (asset stripping)、なにもかもが口利き料に転化する (rent seeking)。少なくとも、先進資本主義国にある経済モデルが市場化の進展とともに希薄になってしまっている。つまり、ロシアには前途がなくなっていると結論せざるをえない。このように、非常に衝撃的な経済の実態報告であった。

(本山 美彦)